

「電子図書館レポート 2009」の発行にあたって

高度情報化社会における大学附属図書館の新しい姿として、本学に電子図書館構想が提案され、具体的なシステム導入が行われて10数年経ちました。本館は、本学が関係する科学技術の先端的かつ独創的な研究・教育、そして社会連携をサポートする学術情報を迅速かつ正確に提供する施設です。その間、学術情報の多種多様化及び情報利用の多様化・高度化が進んできました。情報は文字情報から表・図・画像・ビデオなどのマルチメディア情報になり、利用も検索から加工・編集などの付加価値などを含んだ高度なものになっています。一方、図書館内の物理的なスペース利用形態は、個人単位の閲覧からグループ単位の閲覧プラス意見交換の場へ変化しようとしています。

このような変化に対応できるように、常に新しい電子図書館の在り方を求めて、関連システムの整備・充実をはかり、最先端技術を駆使しながら、人が集まり情報が集まり増幅されていく、知の創造・醸成の場を確立しています。

本レポートは、これからの電子図書館機能の実現に向けて、本館研究開発室を中心とした活動（2008年度）をまとめたものです。本館はこれまで、学内知的生産物の電子化・24時間運用・リアルタイムかつ高度な情報利用・授業データのアーカイブ化などを、順次実現してきました。最先端研究者・技術者が集結する本学において、新しい知識・知恵を集約・体系化し、世界へ向けた情報発信基地となるべく、次世代電子図書館の具体化とその社会展開（教育・普及）を推進しています。これらの活動がわが国の電子図書館システムの継続的發展に貢献することを期待しています。

2009年9月18日

副学長（附属図書館長）

木戸出 正繼